

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2010(平成22)年10月15日 第446号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
<http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>
毎月15日発行 年間購読料 300円(1部30円)



—— 今月の主な紙面 ——

- (1面) ● 糖尿病対策に新展開
第51回日本人間ドック学会より
- (2・3面(見開き))
 - 連載 歯の喪失は予防できる
人生の最後までおせんべいをバリバリと 第3回
 - 連載 産業医訪問 第84回
 - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
元気できいきシリーズ 第5回: 医師/保健師/
管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ● 実践と研究が織り成す「栄養学」の構築と発展を目指して
第57回日本栄養改善学会学術集いが開催
 - メンタルヘルスと職場環境
産業保健フォーラム IN TOKYO 2010
 - 「健康の社会格差」テーマに
日本学術会議が公開シンポ
 - 全国労働衛生週間—10月1日~7日
 - お知らせ

表 糖尿病の新しい診断基準

- ①空腹時血糖値 $\geq 126\text{mg/dl}$
 - ②75g 経口糖負荷試験2時間値 $\geq 200\text{mg/dl}$
 - ③随時血糖値 $\geq 200\text{mg/dl}$
 - ④HbA1c(国際標準値) $\geq 6.5\%$
- ①~④のいずれかが認められた場合「糖尿病型」とし、後日の検査で再確認されれば「糖尿病」と診断
また、①から③のいずれかと④が該当すれば、初回検査だけで「糖尿病」と診断

国際標準値への変更に関しては段階的な措置がとられており、論文・学会発表に際しては、DPP4という酵素の働きで不活性化されることから、DPP4の働きを抑える飲み薬が開発された。また、DPP4の影響を受けない注射薬も開発されている。

従来の薬は低血糖を起したり、体重が増加するなど、問題があったが、これらのインクレチン関連薬は、単独では低血糖を

起こさず、体重を増加させることもない。ただし、従来薬の副作用として、低血糖に注意が必要である。

新しい診断基準や新薬の登場などにより、糖尿病の管理方法も見直しが必要となる。

最後に登壇した三井記念病院総合健診センターの山門実所長は、人間ドック担当医師の立場から、「糖尿病は、心疾患、脳血管疾患の重大なリスクであり、人間ドック受診者における糖尿病管理は、生活の質や医療経済などの観点からも社会的な課題である。また、動脈硬化のリスク要因は、糖尿病の他にも、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症などがあり、人間ドック担当医師は、これらをトータルに診ることができればならない」と述べ、その上で、「糖尿病専門医との連携を図ることが重要であると強調した。

激増するわが国の糖尿病(図)。その克服に向けて、新診断基準や新薬の導入に加えて、効果的な生活習慣の改善のための大規模臨床試験も行われている。こうした取り組みに大いに期待したい。

第51回 日本人間ドック学会より 糖尿病対策に新展開

診断基準の改訂や新薬導入で 早期発見、治療効果向上を期待

シンポジウム「糖尿病―診断と管理の新展開」(司会 伊藤千賀子/ランドタワーム/ディカルコートライフケア/リニックス所長、羽田勝計/旭川医科大学教授)では、糖尿病の診断、治療、管理について4人の専門家が講演した。

糖尿病の診断に用いられる血糖値は、検査前の食事や体調などの影響で変化することから、過去1、2カ月間の平均的な血糖状態を表すHbA1cが、これまで補助的な指

標として用いられてきた。しかし、先頃、日本糖尿病学会から示された糖尿病の新しい診断基準(新基準)では、HbA1cの取り扱いが変更された(表)。新基準について東京大学大学院医学系研究科の植木浩二朗准教授は、次のように解説した。

「診断基準改訂の要点は、①これまでの血糖値に加えてHbA1cを同等の重みづけで診断基準項目に取り入れた(ただし、HbA1c値が基準

を超えているだけでは糖尿病とせず、血糖値の基準を満たしている必要がある)②HbA1cのカットオフ値をbA1cの基準との整合性などから6.5%(JDS値では6.1%)とした③血糖とHbA1cの同時測定を推奨し、1回の検査で糖尿病と診断できるようにした④糖尿病のハイリスク者には糖負荷試験を行い、糖尿病の確定診断や将来の発症リスクを把握することを推奨した―などである。

長は、測定法の違いにより、海外で広く用いられているHbA1c(NGSP値)に比べて、わが国のHbA1c(JDS値)は約0.4%低値である。糖尿病の診断や治療研究などで、HbA1cの国際標準化が必要なことから「糖尿病関連検査の標準化に関する委員会」で検討を行い、NGSP相当値をHbA1c(国際標準値)とし、JDS値に0.4%を加えた値での表記に移行することとした」と説明した。

国際標準値への変更に関しては段階的な措置がとられており、論文・学会発表に際しては、DPP4という酵素の働きで不活性化されることから、DPP4の働きを抑える飲み薬が開発された。また、DPP4の影響を受けない注射薬も開発されている。

従来の薬は低血糖を起したり、体重が増加するなど、問題があったが、これらのインクレチン関連薬は、単独では低血糖を

起こさず、体重を増加させることもない。ただし、従来薬の副作用として、低血糖に注意が必要である。

新しい診断基準や新薬の登場などにより、糖尿病の管理方法も見直しが必要となる。

最後に登壇した三井記念病院総合健診センターの山門実所長は、人間ドック担当医師の立場から、「糖尿病は、心疾患、脳血管疾患の重大なリスクであり、人間ドック受診者における糖尿病管理は、生活の質や医療経済などの観点からも社会的な課題である。また、動脈硬化のリスク要因は、糖尿病の他にも、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症などがあり、人間ドック担当医師は、これらをトータルに診ることができればならない」と述べ、その上で、「糖尿病専門医との連携を図ることが重要であると強調した。

激増するわが国の糖尿病(図)。その克服に向けて、新診断基準や新薬の導入に加えて、効果的な生活習慣の改善のための大規模臨床試験も行われている。こうした取り組みに大いに期待したい。

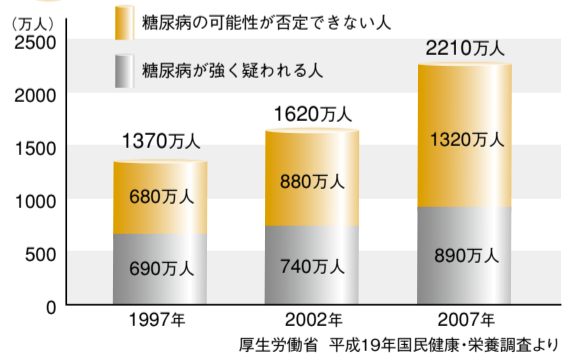
11月14日は国連が定めた「世界糖尿病デー」。今や糖尿病対策は世界的な課題となっている。糖尿病は放置すると重篤な合併症を引き起こすことから、健診などで早期発見し、早期治療につなげることが重要とされている。こうしたことから、日本糖尿病学会では今年5月の総会で、より早期の診断が可能となるよう糖尿病診断基準の改訂を行った。また治療の面でも、従来の薬に比べて副作用が少なく、高い効果が得られるという新薬が昨年末から相次いで発売され、期待が寄せられている。こうした中、8月26日、27日の両日にわたり北海道・旭川市で開催された第51回日本人間ドック学会学術大会(会長 吉田威吉/旭川市立旭川病院理事長)では、糖尿病に関する最新情報を盛り込んだシンポジウムが行われた。今月はその概要を紹介する。

これらにより、診断の手順が明確になったことで、糖尿病の早期発見や、合併症の抑制のための適切な介入が期待される。

また、新基準ではHbA1cの国際標準化も図られている。この問題については滋賀医科大学附属病院の柏木厚典院長

関しては今年7月から国際標準値に変更されているが、日常診療や健診などでは、当面は現在のJDS値を継続使用し、別途学会が告示する日時より国際標準値に変更される予定だ。

図 激増する日本人の糖尿病



個人情報取扱について

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江崎良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

メンタルヘルスと職場環境

産業保健フォーラム IN TOKYO 2010



わが国の自殺者数は1998年から12年連続で年間3万人を超えている。こうした深刻な状況への対策として、厚生労働省では今年1月に「自殺：うつ病等対策プロジェクトチーム」を設置。職場におけるメンタルヘルス対策・職場復帰の支援の充実」が重点対策の一つとされた。これを

このうち、9月3日に東京千代田区の九段会館で開催された産業保健フォーラム IN TOKYO 2010(主催 東京労働局、東京労働基準協会連合会、東京産業保健推進センター)では、「メンタルヘルスと快適な職場環境をめざしてII」をメインテーマに、さまざまな講演が行

場復帰の支援の充実」が重点対策の一つとされた。これを「メンタルヘルス対策における職場復帰について」と題し、メディカルケア虎ノ門の五十嵐良雄院長が、うつ病などによる休職者のためのリワーク(復職支援)プログラムについて紹介した。

また、「メンタルヘルスケアの取り組みについて」と題して、リコーの杉浦顕一郎長による事例発表なども行われた。

冒頭、同分科会の岸玲子委員長は、「日本学術会議では、今日の議論や意見交換を踏まえ、わが国の健康の社会格差

問題解決に向けた提言をまとめる予定である」と語った。続いて講演では、岸委員長による「日本の健康格差：貧困問題」、東京大学大学院の盛山和夫教授による「社会調査からみたわが国の健康格差と健康格差の問題」、山陽学

その後の総合討論では、会場参加者からも活発な質疑が行われ、さまざまな人々が共に健康に生きることでできる社会を作るための方策をめぐり、熱心な討議が行われた。

第234回ヘルスケア研修会が11月4日(木)14時から16時まで、東京千代田区「星陵会館」で開かれる。「頑固にたばこを続ける方」をテーマに、新中川病院の加藤正人医師が講演する。

司会者は東急病院健康管理センターの伊藤克人所長。参加費2千円。定員先着400人。

実践と研究が織り成す

第57回 日本栄養改善学会学術総会が開催

増える生活習慣病。その予防や対策の要となるのが、食生活の改善である。9月10日から12日の3日間、埼玉・坂戸市の女子栄養大学で開催された第57回日本栄養改善学会学術総会(会長 武見ゆかり女子栄養大学大学院教授)では、「実践と研究が織り成す『栄養学』の構築と発展を目指して―一人ひとりの望ましい食の実現から地域の環境づくりまで」をテーマに、多数のシンポジウムや講演などが行われた。



学術総会の基調シンポジウム「生活習慣病予防における栄養・食生活の位置づけ―最新の科学的根拠から」(座長 吉池信男青森県立保健大学教授、武見ゆかり教授)では、4人の専門家が登壇。講演や

病予防のための望ましい食生活などについて、厚生労働省研究班による多目的コホート研究(EHO Study)や海外の研究など、国内外の最新の知見を示しながら解説した。

この他、学術集では、会長講演「食環境づくりにおける研究と実践の連携・統合」、特別講演「子どもの肥満予防のための持続可能なアプローチ」、シンポジウム「超高齢社会に対応した栄養政策」、特定健診・特定保健指導の現状と課題」など、多様な講演が行われた。

このスローガンのもと、10月1日から7日まで開催された全国労働衛生週間では、職場における労働衛生意識の向上と共に、自主的な労働衛生管理活動の促進を目指した取り組みが展開された。

このスローガンのもと、10月1日から7日まで開催された全国労働衛生週間では、職場における労働衛生意識の向上と共に、自主的な労働衛生管理活動の促進を目指した取り組みが展開された。

「栄養学」の構築と発展を目指して

科学的根拠に基づいた食環境づくりの課題を議論

学術総会の基調シンポジウム「生活習慣病予防における栄養・食生活の位置づけ―最新の科学的根拠から」(座長 吉池信男青森県立保健大学教授、武見ゆかり教授)では、4人の専門家が登壇。講演や

病予防のための望ましい食生活などについて、厚生労働省研究班による多目的コホート研究(EHO Study)や海外の研究など、国内外の最新の知見を示しながら解説した。

この他、学術集では、会長講演「食環境づくりにおける研究と実践の連携・統合」、特別講演「子どもの肥満予防のための持続可能なアプローチ」、シンポジウム「超高齢社会に対応した栄養政策」、特定健診・特定保健指導の現状と課題」など、多様な講演が行われた。

このスローガンのもと、10月1日から7日まで開催された全国労働衛生週間では、職場における労働衛生意識の向上と共に、自主的な労働衛生管理活動の促進を目指した取り組みが展開された。

このスローガンのもと、10月1日から7日まで開催された全国労働衛生週間では、職場における労働衛生意識の向上と共に、自主的な労働衛生管理活動の促進を目指した取り組みが展開された。

「健康の社会格差」テーマに日本学術会議が公開シンポジウム

「健康の社会格差―今、多様な知を結集し、すべての人々に生きやすい社会を」をテーマに、日本学術会議パブリックヘルス科学分科会主催の市民公開シンポジウム(座長 川上憲人東京大学大学院教授、安村誠司福島県立医科大学教授)が、7月30日、東京・港区の日本学術会議講堂で開催された。

その後の総合討論では、会場参加者からも活発な質疑が行われ、さまざまな人々が共に健康に生きることでできる社会を作るための方策をめぐり、熱心な討議が行われた。

その後の総合討論では、会場参加者からも活発な質疑が行われ、さまざまな人々が共に健康に生きることでできる社会を作るための方策をめぐり、熱心な討議が行われた。

その後の総合討論では、会場参加者からも活発な質疑が行われ、さまざまな人々が共に健康に生きることでできる社会を作るための方策をめぐり、熱心な討議が行われた。

全国労働衛生週間

10月1日～7日



特に、労働者の約6割が仕事に関する強い不安を感じている現状などを踏まえ、今年度は「心の健康維持・増進 全員参加でメンタルヘルス」をスローガンとして掲げている。

お知らせ

第234回ヘルスケア研修会
頑固にたばこを続ける方
どう対応するか

11月4日(木) 14:16時
東京千代田区「星陵会館」

従来の CAVI・ABIに加え、末梢動脈疾患(PAD)診断機能を強化!

血圧脈波検査装置(CAVI/ABI)
VaSera VS-1500Aシリーズ
医療機器承認番号: 22100BZX00762000



●TBI専用ユニット(ポンプ内蔵)で高性能を実現
新たに開発した足趾血圧ユニットTPU-15(ポンプ内蔵)により、脈波計測感度をあげることによってTBI計測精度を大幅に上げました。

●負荷ABI機能の追加
フクダ電子は独自のABI負荷装置VSL-100(オプション)を開発しました。更に負荷ABIの解析ソフトウェアを充実。



CAVI ABI TBI

FUKUDA DENSHI 本社 / 〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) http://www.fukuda.co.jp
お客様窓口... ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月~金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00~18:00
●医療電子機器の総合メーカー **フクダ電子株式会社**